

下諏訪の津田さんと同様に、郵便による蝶標本の交換をしていた南安曇郡（現安曇野市）在住の丸山潔さんに、越冬蛹の形で送ってもらって生きたオスの美しさを体験はできていたクモツマキチョウに、実際に出会える可能性がある産地へと案内してもらえたのが1979年5月28日。丸山さんのHONDAアコードでドライブし、登山道入り口に車を止める。妻と子供二人には車を止めた草原周辺で遊んでてもらい、丸山さんと二人だけでクモツマキチョウの探索活動に移る。急斜面の草つきは体感的には60度以上に思ってしまう、まさに崖斜面こそがクモツマキチョウの飛ぶ環境だとのこと。結局この日はオスの飛翔場面には出会えず、丸山さんがメスを目撃しただけ。引き続き妻と子供たちには車の周辺で留守番をしてもらって登山道を登って奥へと進む。やがて急な登りとなるがその距離はそれほど長くはなく、途中、路傍にきれいなイワカガミがみられ、平坦な道となってどんどん進むと道路わきに残雪があり、カタクリの花が咲く光景も見る。丸山さんはあちこち岩の隙間に生えている食草のイワハタザオを探って花のつくすぐ近くの茎部にうっすらと黄色味を帯びた小さい卵を見つける。卵は採取が容易なだけに取りつくすことのないよう節度が必要。岩場の一角にある平坦な草地で「これはけっこう美味しいんですよ」と丸山さんがコゴミという緑濃い新葉をもぎとる。この日の夕刻、丸山さん宅でおひたしの形で賞味させていただき、初めての山の幸を味わう（後日調査：コゴミはクサソテツの若芽）。



翌29日。子供たちに雪渓までの軽登山を経験させてやろうと、家族だけのレンタカー利用で再訪問。イワカガミが咲く登り道の途中、右手山際に咲くツツジの花にきれいな春型のミヤマカラサアゲハが訪れているので捕獲。金縁色のビロード調鱗粉がすばらしく美しい。カタクリの咲くそばの残雪で子供たちはクツだけの「スベリ」を楽しみ、雪渓の手前でクモツマキチョウのメスが緩やかな飛翔であらわれ、初めての捕獲を果たす。この頃はまだメスから採卵して殖やすという考えのなかったのが惜まれる。1997年に久しぶりに単独でこの場所を訪れると、以前の環境はほとんど残っていないと、雪渓近くでエゾスジグロシロチョウの卵がみつかっただけに終わる。（現在、クモツマキチョウは種指定の保護対象で採集はできない）

クモツマキチョウの♂が自然の中で飛び交う光景を見たいという想いが実現できたのが2017年5月20日。安曇野市と東御市でオオルリシジミの保全状況を視察するドライブ旅行のついでに安曇野市の丸山さんに案内していただいてクモツマキチョウに出会えるという渓谷を訪問。雪渓のある遊歩道探索ではチョウに出会えず、ひきあげてきた目の前で、大勢の愛好家が

スミレの花に吸蜜飛来した♂個体にカメラを向けている光景が展開。急ぎビデオカメラONでその集団に加わって初撮影。その後、自然の中で飛ぶきれいな♂や、♂同志が追飛翔をする様子も見ることができ、こうした機会をアレンジしてくれた丸山潔さんと加古川の里山・ギフチョウ・ネットの仲間らに感謝。



Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.